

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】

1. 都道府県、市町村 山形県金山町<sup>かねやまちょう</sup>
2. 事業者名 共生のむら すぎさわ
3. 取組みの名称 都市との交流による山村の活性化
4. 取組概要等

概要

秋田県と山形県の県境にある金山町杉沢地区では、集落の全世帯が参加するゆるやかな調整組織「共生のむらすぎさわ」と称して、地域ぐるみでグリーン・ツーリズムに熱心に取り組んでいる。

活動は、平成5年に農山村での豊かな暮らしを考える拠点として「暮らし考房」を立ち上げたことに始まり、毎年「山里フォーラム」と称して、山村生活を実践する哲学者内山節氏を講師に迎えての山里哲学講座を開催している。

「暮らし考房」では、このほか、本藍染め、チェーンソークラフト、メープルサップ（カエデの樹液）採取など、地域の自然、暮らしの技を体験することができるほか、民泊も受け入れや、森づくり、森あそび、川あそびによる環境教育、地域学習などを通じて山村の豊かさを発信している。

また、ツル細工や刺し子といった昔からむらにあった伝統技術や、有機栽培源流米、有機野菜、山菜等、都市との交流によりその価値が再認識されたそれらを直販・宅配により販売している。ほかにも、古くからの地域資源であるカエデの樹液を利用した商品として、メープルドリンク、メープルビール、メープルソフトクリームなどが誕生し、「メープルの里」づくりにつながっている。

杉沢の生活に共感を覚えた都市住民と共同でむらの空き屋を買い取り、「金山スロー村」と名付け、より深く山村の暮らしを実践できる交流の場として活用している。

わずか13戸の小集落が、古くからの知恵と新しい試みの継続により、活動を始めて14年、全国でも知られるグリーン・ツーリズムのむらとなった。

活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
来客数	2,000	1,500	1,400	1,500	1,600
解説	単位：人 体験、宿泊者数				
イベント回数	10	10	12	12	12
解説	単位：回 山里フォーラム、メイプルフェスタ、とっておき体験、地域学習、市民参加の森づくり 等				
イベント参加者	250	250	250	280	280
解説	単位：人				

活用している地域資源

山村というフィールドの活用

森林環境教育：森づくり、森あそび、川遊び等

地域学習：山里の暮らし体験、研修等

都市よりの持つ技の活用

体験のむら：ツル細工、さし子、染め色、チェーンソーアート、食品加工、工芸販売

自生するイタヤカエデの樹液の活用

メープルサップ研究会の採液と商品開発、アンテナショップ「楓」での販売、メープルトラスト、メープルフェスタの開催等

清流の活用

すぎさわ清流米、野菜・山菜の販売(宅配産直)

空き家の活用(山形金山スロー村)

都市住民と共に買い取り交流の場として活用

荒廃地の活用(楓の森づくり)

イタヤカエデの植栽(市民参加の森づくり)

地域活性化のポイント

「暮らし考房」が試行し、地域に提案。やりたい人、やれる人で新しい組織を作り展開する。

「共生のむらすぎさわ」として、ゆるやかな組織で全体調整を行う。

活動はメンバーを明らかにし、一人一人の存在感とやりがい感を大事にする。

そこにあるもの(物語)を活かし、そこにしかないものに育てる。

変わらない精神と変わっていく具体物をもつ。

山村は山村を活かしてこそ都市にまさる。都市に媚びない人間となる。

自然とそれを活かす暮らし、生き生きする人を大事にする。

「共生のむらすぎさわ」は、自然と人間・山村と都市・歴史と未来の三つの共生をかかげる。

事業の今後の展開方向

山村に新しい仕事を作る

・親林倶楽部森の案内人による丸太小屋、チェーンソーカービング等

・新しい樹木の試作 4年目(近々商品化の予定)

集落の景観づくり

・楓をメインに景観ポイントを作りたい

・荒廃地の活用をはかりたい

さけられないであろう高齢化と過疎化に対して新住民の受け入れをはかりたい

